

行事報告

広域アジアものづくり技術・人材高度化拠点形成事業—CIS 活動報告(インドネシア)

広域アジアものづくり技術・人材高度化研究センター 運営委員会 委員 菅哲男
接合科学研究所 客員教授

2019年度のインドネシア CIS (カップリング インターンシップ)が、インドネシアで 11 月 24 日・12 月 7 日の期間に行われました。大阪大学の外国語学部 2 名、工学研究科 2 名、インドネシア大の人文学部 2 名と工学研究科 1 名の計 7 名の学生が参加しました。接合科学研究所の橋本特任講師が、CIS の全工程を引率しました。

現地では 2 日間の事前研修をインドネシア大 (デポック)で行い、日本企業の説明やコミュニケーションの研修、溶接基礎知識の教育、CIS 実習テーマの検討などを実施しました。

11 月 27 日からの休日を除く 5 日間は、セラレンにあるチレゴン・ファブリーケーターズ(PTCF)社で企業実習を実施しました。PTCF は、IHI の子会社であり、「発電用ボイラの製造メーカー」です。実習としては、会社説明(組織、業務内容)、溶接講習、品質管理・工程管理などの説明を受けると共に、工場見学(ボイラ・プラントの製造)や、PTCF の幹部やスタッフとの面談を行いました。又、12 月 5 日には建設中の Lontar

火力発電所(バンテン)も見学しました。学生は、実習テーマの「コミュニケーションの課題と対策」に関して、連日協議を重ねて、一生懸命に取り組みました。なお、病気のため学生 1 名の欠員がありましたが、全員が協力してテーマのとりまとめをしました。

最終日の 12 月 6 日にはインドネシア大で、学生は実習テーマの検討結果について発表しました。最終報告会には、インドネシア大学の Baiduri 部長(International Office)、Winarto 教授、PT.CF の吉田社長、斎藤シニアマネージャー、大阪大学の菅客員教授、橋本特任講師ら計 18 名の参加があり、活発な質疑応答が行われました。吉田社長からは、「興味ある提案が多く出ており、社内での活用を検討したい」とのコメントがありました。

学生は、「日系現地企業のものづくり現場」を体験すると共に、実習テーマを通して「コミュニケーション力や異文化理解」の重要性を習得しており、大変価値のある活動でした。

